

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		ティノシース		公表日			2026年 7 月 27 日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	バギーを外に出したり、マットの配置の工夫をして医療的ケア児のケアや支援のしやすいように工夫している。	夏休みなど児童発達支援と放課後等デイサービスの支援時間帯が重なる時などは、成長に合わせて狭く感じることがあるのでスペース効率を改善するひつようがある。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	4	定員にかかわらず利用者の状態を考えながら、支援内容や、安全に配慮し、スタッフ（特に看護師）の配置を確保している。	一人ひとりの身体も大きくなり移動等に人手が必要と感じる事がある、最近では、一時的にスタッフを増員し対応している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	0	今年は、セラピーマットの入替えを行った。環境上の配慮については清掃は毎日行い利用者の状態に合わせて適温にするなど心地の良い環境になるよう気を配っている。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0		車椅子を支援室に直接乗り入れるため、室内の清掃に一層配慮する必要がある。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	支援室の一部をロールスクリーンや仕切りを移動させスタッフを配置し個別対応している。	風邪兆候がある子どもが複数名重なった場合など個室利用については、施設の設備上対応に限りがあるため、より安全に過ごせる環境づくりを引き続き検討していきます。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	月例スタッフミーティング、毎朝のミーティング時に日々振り返りを行い業務改善の目標に取り組んでいる。	これまでも、朝のミーティング、送迎時等こまめに情報共有の機会はあるもののより一層確実に行える体制づくりを検討していきます。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	開所以来、每期自己評価の提出をお願いし、内容をホームページにアップしている。	ミーティングにて情報を共有して意見を出し合い業務改善に努めている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	朝のミーティングで気になることはすぐに意見等出して業務に繋げている。日頃のコミュニケーションでも行っている。	ミーティングにて情報を共有して意見を出し合い業務改善に努めている。共有ツールがもっと活用できたらいいのではないかな。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5		外部評価の実施は行っていない。今後の実施については引き続き検討課題である。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	内部研修会はその時の課題やニーズに応じて実施している。外部研修では、案内の周知に努め、積極的に参加も行っている。				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	ホームページ上で公表している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	利用開始前に家庭訪問などで子どもの生活環境や保護者の意向把握を行って、支援計画に反映されている。特に医療的ケアの欠かせない子どもについては、併営する訪問看護ステーションと連携して、受入体制を整えている。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	児童発達支援管理責任者を中心に朝のミーティングや子どものお迎え前の送迎時など日常的な意見交換を行い、支援内容や課題について継続的に検討、共有している。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	決定した支援計画は常に個人のファイルがあるので共有し、朝のミーティング子どものお迎え前の送迎時など職員に伝達され、計画に沿った支援が行われている。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	日々の観察や保護者からの聞き取り、職員間での情報共有を通して、インフォーマルなアセスメントを継続的に実施し、支援に活かしています。	子ども毎に障害の特性や程度に幅がある為、現時点ではツールを用いたアセスメントの実施には至っておらず、今後の課題である。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	ガイドラインに沿って目標設定の上、子どもや家族の状況に合わせて、最適な支援内容の設定を心がけている。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	3	スタッフが意見を出しやすい環境づくりに努め、意見ボスの設置やミーティング等で意見を募りながら、スタッフで話し合っている。				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	スタッフミーティングで議題に挙げ、新しい活動等を検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を取り入れ、一人ひとりに合わせた支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	朝のミーティング、子どもを迎えに行く車の中で確認を行うとともに、パートタイムの職員もいるので、朝の会の前にスタッフ全員に再度確認し支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	気づきなどは、メモや業務日誌への記録で残し、翌朝のミーティングでゼンスタッフに伝達している。すぐに送迎が始まるので子どもを届けた後車内で振り返りを行うようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	各担当者は、利用日毎・子ども毎に支援の経過を記録し、支援の改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	少なくとも6か月には一度はモニタリングを行って、計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1		放課後の短い時間の中で、「4つの基本活動」を組み合わせた支援は、必ずしもできていない。「地域交流の機会の提供」は、スタッフ間で検討し、今後積極的に取組んでいきたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	保護者やスタッフの意見を取り入れその思いに応じたアイテムを使用し自己決定出来るよう工夫している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	開催される際には、最も精通した担当者を参加させている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	連携は出来ている。また医療的ケア度の高い子どもが多いため、併当の訪問看護ステーションや嘱託医、主治医とは、緊密な連携をとっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	学校から年間行事予定表の提供を受け、子どもの学校活動を把握するほか、迎えの引き渡し時に当日の様子を聞き取るなどして、体調や学習の取り組み状況などを絶えず情報共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	2		就学した後に、関りがほとんどなくなっている就学前の保育園等と間で情報共有の機会をつくりだすことには、むずかしさを感じている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	3	創業以来、学校を卒業するまで利用を続けている子どもはいないが、他のサービスへ移行する場合は、積極的に情報提供を行う予定。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	6		こうした専門的機関との連携の機会は乏しい。引き続き検討課題。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	8		重症心身障害児施設のため、体調を考え交流する機会は少ない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	6		本市自立支援協議会からは、特段招待されることはなく、活動の状況からしても参加の意義は乏しいと感じる。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	送迎時の会話や連絡帳の他、写真や動画により、子どもの生活の状況を伝え合っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	6	併当の訪問看護ステーションと連携し、家庭訪問により医療的ケアを中心とした情報提供や意見交換を行っている。	今後、希望があれば家族等の参加できる研修の機会や情報提供について検討課題。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	利用開始前に施設見学や家庭訪問の機会を設け、その際サービスの内容を説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	利用開始前に施設見学や家庭訪問の機会を設けて、意向確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	必ず支援内容を説明のうえ、同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	家族支援として、自宅へ伺ったり電話でお話をする機会を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	併営の訪問看護ステーションと連携して、きょうだいが交流するイベントを開催している。また、昨年は、参観を開催し、保護者との顔合わせ程度だが、交流する機会を設けた。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	書面のほか電話、SNS等複数の窓口を用意して、苦情の申し入れがしやすい環境づくりに努めている。また、苦情や申し入れがあった際には、逐一責任者に報告する体制となっている。	年齢に応じたイベント・交流内容を考えるように今後も続けていきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	日々の活動の様子をSNSにより、写真や動画で保護者に報告している。また、最近では、保護者全体にわかるよう月に一回おたよりも発行している。	ホームページの活用も積極的に進めていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	電子データの保管は大手クラウドサービスをりようするなど、個人情報の取り扱いには、特に留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	理学療法士、看護師といった専門人材を配置するほかサインボード等のツールを活用して、障害の特性に応じたコミュニケーションを可能とする体制づくりに努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6	小規模事業所であり、地域住民を招待するような行事の開催は難しいが、今後は畑での活動や地域とのつながりを深める機会を積極的に取り入れていく予定です。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	2	不定期で訓練を実施しており、おたよりなどを通してご家族にも周知している。	新たに採用した職員に対し、周知が不十分の為、再確認も含めて定期的に訓練・周知を実施していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	2	大災害を想定したBCPを想定してある。	支援時間が短く、限られた時間でも実践的な訓練となるよう内容の充実に努めていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	こどもの基礎した疾患やこれに関連した服薬の状況などは、利用開始までに書面で届けてもらっている。変更や変化がある場合は、随時保護者様に確認し、書面でも提出してもらっている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	食物アレルギーがある場合は、主治医の指示に基づき対応することとしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	1年を実施期間とする安全計画のほか、重大事故を防止するための各種安全マニュアルを策定している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	2	事故とは言えないような小さな気づきでも必ず保護者にしらせるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	ミスや事故は細大漏らさず責任者へ報告する体制としており、その内容はミーティング等で全職員に伝達されている。過去には事故のシュミレーション行ったこともある。共有、検討の重要性を感じた。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	研修会の開催と共に、虐待に該当するような取り扱いがなかったか振り返りを行うミーティングを定期的に行っている。グループワークをしたことは大変有意義だった。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	主に重症心身障害児を受け入れる施設であり、原則として身体拘束行わないこととしている。万が一身体拘束の必要がある場合は、必ず所要の手続きを行う。	